

第1章 はじめに

旧當麻庁舎は、昭和43(1968)年に建築以来、當麻町、葛城市の庁舎として54年間行政サービスを提供してきましたが、耐震診断の結果「地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する可能性が高い」と判断されました。耐震補強も含め様々な検討を行いました。耐震補強をした場合、職員及び来庁者の動線を確保できないことや、エレベーター設置等のバリアフリー化が困難であること等の課題があり、除却が必要との判断に至りました。

令和3(2021)年1月からは、「當麻庁舎の危険性排除に伴う機能再編に関する特別委員会」の設置を受け、市議会とともに、旧當麻庁舎の移転先について、旧當麻分庁舎、當麻図書館、當麻文化会館、新庄庁舎、並びにそれぞれの建て替え等を含めた検討を行ってまいりましたが、大地震がいつどこで起こってもおかしくない状況であり、市民及び職員の安全に関わる万が一にも許されない課題であるため、一時的に當麻庁舎機能の移転を優先することとしました。

一時的移転に当たっては、當麻エリアの住民サービスを維持するため、ICTの活用を取り入れた総合窓口課を創設し、旧當麻分庁舎には総合窓口課並びにこども未来創造部及び教育委員会を移転、他の部署については同時に新庄庁舎に移転しました。令和4(2022)年1月より、旧當麻分庁舎は新たな當麻庁舎として運営を開始し、業務を継続しています。なお、令和5(2023)年2月には旧當麻庁舎の解体作業が完了しています。

當麻庁舎の再配置に当たっては、市議会とも協議を重ね、新庄庁舎(現在築35年)の更新を迎える時点で基本的には庁舎を一つすることを念頭に、周辺施設の當麻図書館が築56年、當麻文化会館が築34年を経過し、共に老朽化が進行していることも鑑みながら、令和4(2022)年7月、當麻庁舎周辺施設も含めた再配置について「**葛城市當麻複合施設整備基本方針**」(以下、基本方針という。)を策定しました。

基本方針では、當麻庁舎周辺エリアに誰もが気軽に立ち寄れる地域の活動拠点を創出することを目的としつつ、公共施設マネジメントの観点も踏まえ、**それぞれの施設を建て替えるのではなく、當麻文化会館を全面改修し、一つの施設に庁舎機能を始め各要素を複合化することにより、新たなシンボルとなる複合施設として整備を進める考え方**について記載しています。複合化の実現に当たっては、現状の建物を単にきれいにするというだけではなく、建物の骨格を生かしつつ、部屋の配置や使い方を一新した、全面改修を想定しています。複合化による機能集約に加え、建物の骨格を利用することで、費用面やゼロカーボンシティ宣言の達成に寄与する環境面に配慮しつつ、補修や補強によって安全性と機能性を確保、また必要に応じて増築を検討する大規模な改修計画となります。

改修後は、今後も長く利用する施設に生まれ変わりますので、本計画では、基本方針の考え方を基に、時代やニーズに合った施設の再編が効率的・効果的に達成できるよう、市民アンケートや市民ワークショップ等を通して得られた、**新しい複合施設に求められる機能や要素、またそのボリューム等について、設計への反映に向けた要求事項を整理**します。

第2章 複合化対象施設の概況

<當麻文化会館>

所在地	葛城市竹内256-9
構造	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
高さ	13.0m
竣工年	昭和63(1988)年
階数	地下1階/地上3階(塔屋付)
延床面積	3554.8㎡(リハーサル棟を含む)
利用時間	9:00~22:00(ホールは21:00まで)※1
休館日	毎週火曜日、毎月第2、4水曜日、12月28日から翌年1月4日
その他	リハーサル棟:高さ(4.8m)/竣工年昭和63(1988)年/鉄骨造/地上1階建/延床面積(81.0㎡)

※1: 諸室の予約については、「午前」(9:00~12:00)、「午後」(13:00~17:00)、「夜間」(18:00~22:00)の三つのタイムゾーンに分けて実施

主要な部屋の利用率※2,3	部屋名	面積	利用率	部屋名	面積	利用率
ホール	570.3㎡	25%	メディアルーム	63.0㎡	9%	
控室	38.0㎡	24%	調理実習室	83.8㎡	5%	
大研修室	132.0㎡	28%	和室	59.0㎡	29%	
中研修室	84.0㎡	31%	創作室	58.1㎡	30%	
小研修室	40.0㎡	34%	陶芸室	51.9㎡	12%	
音楽室	73.8㎡	49%	団体交流室	31.0㎡	30%	
セミナー室	63.4㎡	41%	施設全体		27%	

※2: 1日3コマ(午前、午後、夜間)×開館日数(282日)=100%で計算

※3: 平成30(2018)年度の実績

<分析>

音楽室やセミナー室等、多目的に利用できる部屋の利用率は高く、次いで会議や研修等で利用する大・中・小研修室は中程度の利用率となっています。また、創作室や陶芸室等の専門性が高い部屋は、他の利用と併用が難しいため、利用率が低い傾向となっています。主要な部屋の同時利用率は、0~2室が最も高く、3室以上の同時利用となる場合は、いずれも低い傾向にあります。施設全体的に利用率が低く、利用目的や規模、現代のニーズに沿っていない等のミスマッチが生じていると考えられます。多様なニーズを踏まえたしつらえや、スペースの有効活用、適性規模の見直しが必要です。

<當麻図書館>

所在地	葛城市長尾89-1
構造	図書館:鉄筋コンクリート造/閉架書庫:鉄骨造
高さ	図書館:8.6m/閉架書庫:2.7m
竣工年	図書館:昭和41(1966)年、昭和63(1988)年 増築/閉架書庫:平成12(2000)年増築
階数	図書館:地上2階/閉架書庫:地上1階
延床面積	図書館:755.6㎡/閉架書庫:25.4㎡
利用時間	9:00~17:00
休館日	毎週火曜日、毎月第2、4水曜日、12月28日から翌年1月4日、図書整理日、特別整理期間
蔵書数	蔵書数101,294冊※4(一般書:60,107冊 児童書:41,187冊) 開架:閉架の割合=7:3

※4: 平成30(2018)年度時点

<分析>

蔵書数・開架冊数が多く、閲覧スペースが十分でないため、ゆとりのない配架となっています。利用状況の分析からも、利用者の大半が貸出を利用しており、読書のみを目的とした滞在型の来館割合が低い傾向です。

<當麻庁舎(旧當麻分庁舎)>

所在地	葛城市長尾85
構造	鉄骨造
高さ	庁舎:7.5m/倉庫:6.5m
竣工年	平成12(2000)年
階数	地上2階
延床面積	庁舎:540.5㎡/倉庫:138.8㎡
利用時間	8:30~17:15
休館日	毎週土・日曜日、祝日、12月29日から翌年1月3日
総合窓口課	利用者件数(令和4(2022)年1月~12月): 20,082件

<分析>

市民が日常生活に必要な手続きに利用する施設であるため、総合窓口課については、恒常的に利用者が来庁されています。そのため、共用スペースが狭く、地域にひらいた場とするには余裕がありません。

第3章 各種分析・調査・課題の把握

1 計画エリアの分析

新しい複合施設のあり方を検討するに当たり、どのような機能が施設に求められるのか、周辺エリアの可能性を踏まえ、将来に向けた方向性について<平面分析>及び<SWOT分析¹>の手法を用いて整理します。

< 平面分析 >



<SWOT分析 -要素の分類->

<ul style="list-style-type: none"> ● 當麻庁舎・當麻図書館・當麻文化会館は、市民にひらかれた公共施設であり、行政サービスの拠点として認知されている ● 當麻エリアの主要施設(庁舎、図書館、文化施設)が1箇所に集約されており、アクセスも良く、利便性が高い ● 二上山や葛城山、岩橋山が並び風景をどの場所からでも望むことができる ● 市民が地域・市の活動へ活発に参加しており、地域力が高い ● 土砂、水害等の自然災害が起こりうるエリアに指定されておらず、防災拠点として機能を継続可能である 	<p>強みを継続することが大切</p> <p>周辺エリアの強み</p>	<p>施設再編を機に弱みを強みに変換</p> <p>周辺エリアの弱み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅が密集している場所や旧道は、道路の幅員が狭いため、車での移動が難しい ● 街灯が少なく、農村広場にはナイター照明がないため、夜間は暗い印象がある ● 公共施設の設備・外観が古く、維持管理費の増大や利用の低下が発生している ● 高い蔵書数を確保した図書館があるものの、子どもたちや子育て世代にとっては手狭で、学生や現役世代の滞在率が低い
<ul style="list-style-type: none"> ● 盆地であるため、一年を通して四季の変化を体感できる ● 住居地域があり、若い世代の人口流入がある[2021年統計:15歳未満年少人口15.27%(県内1位)、15~64歳生産年齢人口56.47%(同9位)、65歳以上老年人口28.26%(同36位)] ● 土地、上下水道及び学童保育の費用が低く、高校生まで医療費を無償としているため、市外から移住した市民が多く、子育てがしやすい環境である ● すみよぎランキング(東洋経済新報社)3年連続総合評価県内1位、近畿地区3位以内 ● 當麻文化会館は、長寿命化により、まだ利用が可能である ● 大阪都心部から電車や車で一時間以内の場所に位置しているため、通勤・通学のアクセスが容易なエリアである ● 旧當麻町と旧新庄町が合併した市のため、文化施設・図書館が2つずつある 	<p>外部からの機会</p> <p>外部(市外・県外)からの脅威</p> <p>弱みを強みに変えるために機会を利用</p>	<p>外部からの脅威</p> <p>「脅威」という外的要因に注意しつつ実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の歴史や文化を伝える場が少ない ● 子育て世帯や若年層が望む魅力的な施設が周辺に少ないとの声がある ● ネットが普及し、タブレット端末等で本が読めるようになったため、紙媒体の本を手にとらず、図書館の需要が低くなる懸念がある ● 當麻エリアの施設が減少し、エリア価値が下がる懸念がある ● 住宅街の近くに商業施設が少ないため、車での移動が必要である

<SWOT分析 -クロス分析->



複合化を機に、時代にあった今までにない施設のあり方を模索できるチャンスと捉えることができます。また、既存の機能に加え、今まで施設を利用したことのない市民が集うことのできる地域に根差した場づくりが魅力あるエリアにつながると思えます。

¹ SWOT分析: 組織の事業の状況等を、強み、弱み、機会、脅威の4つの項目で整理して分析する、戦略方針の策定手法です。プロジェクトの目的を明示し、その目的を達成するために好ましい、又は不利な内外的及び外的要因の特定を目的としています。

2 課題の抽出と検討事項

現状調査やこれまでの取組の結果から、整備における課題と検討事項を整理しました。それぞれの課題は、令和5(2023)年度より本計画を受けた設計業務等の開始を予定していることを踏まえ、「本計画で設計への反映を求める項目…○」と、「設計又は運営検討段階で引き続き検討が必要な項目…★」に分類しています。

市職員ワーキンググループ

- 実施日 : 令和2(2020)年9月24日、10月8日、10月9日、10月16日、11月6日、12月21日、12月23日
- 実施内容 : 當麻庁舎の除却を仮定した周辺エリアのあり方検討

市職員ワークショップ

- 実施日 : 令和4(2022)年2月18日
- 実施内容 : 施設の複合化を仮定した際の課題と必要な機能の整理

市民アンケート

- 実施日 : 令和4(2022)年6月
- 実施内容 : 現施設の課題抽出と施設の複合化に向けた市民ニーズ等の意向調査
- 結果 : 配布数:1,600、回収数:673、回収率:42.1%

市民ワークショップ

- 実施日 : 令和4(2022)年10月16日、11月13日、12月11日
- 実施内容 : 新しい複合施設に求められる機能やサービスの整理
- 参加者 : 第1回30名、第2回37名、第3回34名

市職員・関連団体インタビューワーク

- 実施日 : 令和4(2022)年12月3日
- 実施内容 : 新しい複合施設に求める施設像の整理
- 参加者 : 25人

中間報告会

- 実施日 : 令和5(2023)年2月23日
- 実施内容 : 市民ワークショップの成果及び複合施設の整備計画(案)等の説明
- 参加者 : 82人

課題の抽出と検討事項

<施設全体>

長寿命化に向けた大規模改修が必要	○
遅い時間まで利用可能で、気軽に立ち寄れる施設 ⇒管理・運営と並行して検討	★
時代のニーズの変化に合わせてられる可変性・可逆性	★
カフェやイベントスペース等の地域交流のハブとなる機能 ⇒スペースを確保の上、管理・運営と並行して検討	★
子どもたちが天候に左右されず集えるスペース ⇒他機能の面積を圧迫しない規模で検討	○
屋外の環境(テラス等)を取り込んだつながりのある空間	○
子どもが自由に過ごせ、親も休息を取れる場所	○
誰にとっても使いやすいユニバーサルデザインに配慮	○
直営、指定管理の比較等を含めた運営方法の検討	★

<ホール>

100~200人までの利用が多い ⇒ニーズに見合った使いやすい規模に最適化	○
設備の老朽化、映画鑑賞や発表会を開催できる場所の確保 ⇒規模や用途に見合った設備仕様の検討	○
多目的な利用を可能に ⇒間仕切りの可変性や、床や座席の仕様、その他機能と共存できる音環境等を検討	★
子どもの遊び場やイベントスペースとしても利用可能 ⇒開放性や隣接する機能配置の検討	★

<生涯学習>

中央公民館・新庄文化会館との役割分担 ⇒既存の活動の継続に加え、活動のさらなる展開や新しい活動ニーズにも配慮した部屋構成	○
部屋の大きさや種類によって稼働状況とのバランスが悪い	○
活動の種類毎に多目的に利用可能な部屋が望ましい	○
使用しないときは会議室や自習室としても共用	○
従来の活動を維持し、住民が自主的に参画できる運用方法 ⇒専用スペースを含め、管理・運営と並行して検討	★
活動内容がわかりやすく、気軽に利用しやすい環境 ⇒情報発信ツールを検討	★
定期的なイベントや講座の企画	★

<凡例>

- ・本計画で設計への反映を求める項目……………○
- ・設計又は運営検討段階で引き続き検討が必要な項目……………★

<図書館>

新庄図書館との役割分担 ⇒公共図書館としての社会的役割に加え、本がより使われることを目標に、子どもたちに向けた本と出合える仕組みの検討等、市民の新たな期待に応える施設として整備	○
ゆとりある書架の配置 ⇒開架・閉架のバランスや什器への工夫を検討	★
蔵書数が増加する一方、本のダメージが進行している ⇒本の新陳代謝を高める方法を検討	★
ゆとりある閲覧室と自習室が常設されていない ⇒スペースの確保又は他室との空間共有を検討	○
ある程度空間を仕切れるおはなしの部屋(スペース)	○
従来の静寂な場と自由度の高い、新しい場の共存 ⇒静かな閲覧室として本と向き合う空間を確保/飲食や会話が可能な緊張感のない空間	○
親子で滞在できる図書館 ⇒子ども向け空間の充実やその他機能との連携	○

<庁舎>

総合窓口課を軸に行政サービスを維持	○
子育て支援に関する部局/窓口との連携強化	○
防災機能の充実	○
相談室、会議室の不足 ⇒部屋の確保及び他室との共有方法を検討	○
20年後を目安に新庄庁舎と合わせた庁舎のあり方を検討 ⇒公共施設マネジメントを踏まえ、新庄庁舎が約55年を経過する時期を目安に検討を開始	○

第4章 施設のイメージ像・整備方針

1 新しい複合施設が目指すあり方

新しい複合施設では、地域の子どもたちや街の大人たちが共に使いやすく、身近に感じられ、ゆっくり時間が過ごせる場所が求められています。また、従来の機能に加え、新しい付加価値が求められていると同時に、ただ単に詰め込んで制約を設けることは求められていません。これらを一つの施設に共存させるにはつながり合うこと、混ざり合こと、許容することことが重要です。

1 気がつけば愉しんでいた、そんな場所と空間をつくります。

ふだんから施設に馴染みのある人も、そもそも縁のない人にとっても、心地よい空間の中で、自然と自分の時間を過ごしている。いろんな出会いを、これからの世代へとつないでいく場所となります。



2 時間の流れの遅い場所でもあります。

とにかく忙しい日々の生活の中で、時の流れを気にすることなく、趣味や読書に没入することができるのも複合施設の特権です。動的な場と静的な場の棲み分けができるようにします。



3 空間の新陳代謝を高めます。

変化し続けるニーズに合わせて、空間の構成に柔軟性を持たせることが必要です。一方で、これまで継続されてきた生涯学習活動を地域の財産として受け継ぐことも重要です。多様性を受け入れるとともに、利用者視点を意識したデザインの空間が求められます。



4 場と空間に余白を与えます。

部屋数や蔵書数は多ければ多いほど良い、ということではありません。詰め込みば詰め込むほど、利用する人の行動やその場の機能を制限することになってしまいます。



5 本が、あらゆる人や場所との結節点になります。

本はそれ自体が持つ多様性から、どんな人・どんな場所にも結びつけることができます。また、本とそれらの結びつきによって、より広い範囲に効果が届くものになります。



6 本の新陳代謝を高め、差し出し方を整えます。

時代の変化に合わせた、継続的な蔵書の更新は必要不可欠です。一方で、いつまでも古びることなく、読み継がれる本もあります。それらを取捨選択することが求められます。数少ない蔵書の中でも、一冊一冊の差し出し方を整えることで、より多くの人に本を届けすることができます。それは、新たな出会いをつくることでもあります。

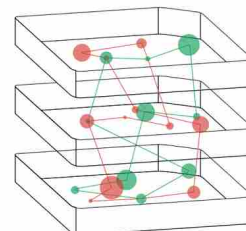


ここは、すべての子どもたちを祝福する場所です。
そして、街の大人たちに、ふだんとは異なる時間の流れを感じてもらう場所でもあります。

加えて、誰もが身体的に弛み、愉しむことができる居心地のよい場所にしたいと思います。

ここでは、それぞれの機能をつなぐ存在として、本は他機能との結節点になると考えています。複合施設の中では、本がいたるところに染み出し、あらゆる場所と人、そしてこれからの子どもたちを、結びつけていくツールとなります。

街に住む皆が気軽に訪れ、気がつけば何かを読んでいたたり、新たな気づきを得られたりできる気持ちのよいひらかれた場所。そんな空間と時間をつくりたいと考えています。



2 整備方針

施設全体（偶然の出会いや発見（セレンディピティ））

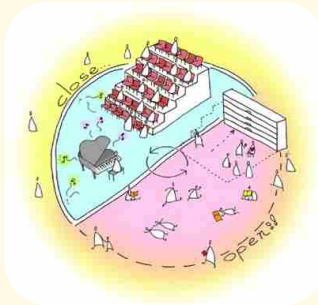
様々な人々がお互いに特別に区別されることなく、気軽に心地よく滞在できるひらかれた場所であることに加え、例えば、調理室の傍に創作意欲を刺激する本が並んだり、市役所の手続きの合間に図書館を覗けたり、一つの複合施設に備わる複数の要素が混ざり合い、結びつくような、地域の人と活動を支える場所を目指します。



ホール（交差点となるひろば）

ニーズ分析に合わせた、使いやすい規模への縮小を想定していますが、ただ小さくするというのではなく、収納式の座席で広く自由な空間を確保することや、隣り合わせる部屋と共存できる音環境を工夫する等、多目的な活用を想定したしつらえを準備します。また、間仕切りを工夫し様々なパターンで利用できるようにすることで、多くの人に、同時に利用していただけるような工夫を行います。

例えば、ピアノの発表会に来館者がギャラリー参加できたり、図書館と隣り合わせた空間で著者のトークイベントがひらかれたり、自由な発想でみなさまの活動が交差する、小さくて大きい、ひろばのような空間づくりを考えます。



生涯学習（活動の継続と共有の場）

これまで継続されてきた生涯学習活動は、地域の財産ともいえる貴重な場となっています。新しい複合施設では、これらの活動が引き続き継続しやすく、加えて、より広く共有できることや、新たに参加しやすくすることに重点を置き、活動の見える化とニーズに合わせた可変性に工夫を凝らします。

クラブ活動を継続してこられた団体のみなさまには、これまでの学びの成果や蓄積を、場を共有する次世代の子どもたちに伝え、参加のきっかけをつくることに、是非一緒に協力していただきたいと考えています。

すばらしい作品に触れたときの感動や、子どもの頃のように創作に熱中する感覚が、自然と共有できる場所にしたいと思います。

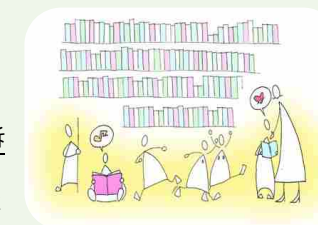


図書館

未来を担う子どもたちが、図書館を入り口として自分たちの可能性を広げられるよう、自然と本に手が伸びる、結節点を提供します。

小さな子どもたちへは、少し体を動かしたり、物陰に隠れ、フィジカル（身体的）に訴えかける遊びの要素と図書館が融合し、読書を体感・発見できるような仕掛けを用意します。成長した子どもたちや大人たちへは、自分たちの未来やまだ見ぬ世界へとつながるような、心が動く本の差し出し方や、心地よく、ふだんとは異なる時間の流れが感じられる読書環境を工夫します。

ただ多くの本を詰め込むのではなく、取捨選択することで新陳代謝を促し、より本が手に届きやすくします。



庁舎（行政サービス拠点の継続）

一つの窓口で多くの手続きが可能となった総合窓口を軸に、葛城市役所當麻庁舎としての行政サービスを継続します。また、職員が読み聞かせの場へ赴き、子育て相談に乗る等、教育委員会、こども未来創造部とともに、子育て支援に関する窓口との連携強化に取り組みます。

有事には防災時の拠点としての機能が確保できるよう、安全・安心に向けた機能の充実も必要です。新庄庁舎との役割分担については、公共施設マネジメントを踏まえつつ、新庄庁舎の更新を迎える時期を目安に、両庁舎を合わせたあり方の検討を行う予定です。



環境配慮



令和3（2021）年12月に「ゼロカーボンシティ」を宣言したことを受け、新しい複合施設の整備に当たっては、これからの先の未来を生きる子どもたちへ豊かな地球環境を残すため、複合化による機能集約及び改修工事の採用による地球環境への配慮に加え、効果の高い省エネルギー技術の導入について比較検討し、その達成に寄与していくことを目指します。

第5章 諸室の計画

1 施設構成の考え方

本計画中の調査により、當麻文化会館は適宜補修や整備を実施することで、今後も長期的に利用可能な建物であることがわかりました。一方、抽出された課題を解決し全く新しい施設とするためには、現状の使い方をベースとした改装計画ではなく、各機能の規模や配置を全面的に一新する計画が適切であると考えます。面積が不足する場合は、必要に応じて増築を行い、建物の骨格を利用しながら安全性や機能性等を確保した、大規模な改修計画も踏まえて検討を行います。

(1) 機能の融合と性能の最適化

専門性の高い部屋を他の用途でも使用できるように工夫する



機能	対応（案）
多機能化	<ul style="list-style-type: none"> 多目的室については、音楽や軽運動、創作活動が可能な仕様とする（防音・防振・防汚・防水性等を一定程度確保） 調理室や工作室等の専門的な部屋を、様々な用途に活用できるしつらえ 多目的ホールは、発表や講演活動等への対応を可能とするためにフラットな床と可動座席とする等
可変性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 可動間仕切り壁の設置による利用人数や予約状況に応じた室構成への対応 廊下と連続した利用を可能とする、諸室のオープン性の確保等
高機能化	<ul style="list-style-type: none"> 動画配信等を可能とする公衆無線LAN環境等の整備 照明の調光や映像機器の利用を可能とするしつらえ等

(2) 従来の空間に新しい要素を混ぜる

複合化のメリットを生かし、従来の機能は維持しながら、新しい機能が混ざり合い、共存した計画とします。例えば、静かで集中できる閲覧室とギャラリー一、又は多目的に使える部屋と、オープンなイベントスペースや、子どもたちがのびのびと動き回れるスペースとの共存等が考えられます。



(3) 複合施設における本の役割

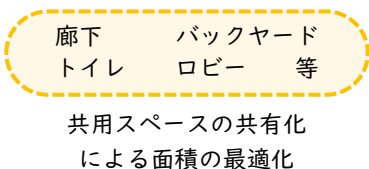
複合施設において、本は、すべての機能をつなぐ重要な要素と考えます。館内では本を様々な位置にレイアウトし、図書館以外の目的で訪れた人も、自然と本を手にとれるような計画とします。館内で開催されるイベントや生涯学習のプログラムと関連した本を誰もが手に取りやすい場所に展示する等、本がいたるところに染み出し、様々な出会いをつくります。

2 共用スペースの充実

生涯学習・ホール・図書館・庁舎それぞれの共用スペースを共有化し、面積の最適化を行います。図書館においては、本の選別により蔵書数を見直すことで新陳代謝を促し、面積を最適化します。それらの余白により豊かな共用スペースをつくり、子どもたちが自由に過ごせる場、多世代が交流できる場、活発な市民活動を促すイベントスペース等、新しい空間を充実させることを検討します。

新しい空間では、子どもの遊び場や自由に飲食や会話を楽しめるスペース等の多世代が利用可能なコミュニティスペースを想定しています。このスペースの運営を行う事業者については、民間活力の導入を含めた検討を行い、今後運営計画と合わせて検討します。

< 共用スペース >



< 共用スペースの活用 = 新しい空間の充実 >



3 諸室の計画

現施設の利用状況や今後の見通しを踏まえ、諸室数を次のとおり整理しました。この数値は、施設の規模を想定するための現時点での想定であり、設計段階で変更となる可能性があります。

用途	現施設	現室名	規模	
ホール	當麻文化会館	ホール	570㎡	
		控室	38㎡	
会議	當麻文化会館	2階大研修室	132㎡	
		2階中研修室	84㎡	
		2階小研修室	40㎡	
		2階団体交流室	31㎡	
	當麻図書館	2階会議室	115㎡	
		2階ミーティングルーム	25㎡	
當麻庁舎	1階会議室	20㎡		
	當麻文化会館	3階音楽室	74㎡	
3階セミナー室		63㎡		
3階メディアルーム		63㎡		
3階調理実習室		84㎡		
3階和室		59㎡		
3階創作室		58㎡		
図書館	當麻図書館	1階開架書庫	175㎡	
		1階児童開架室	200㎡	
		1階閲覧席		
		1階ラウンジコーナー	25㎡	
	庁舎関係	當麻庁舎	屋外開架書庫	25㎡
			執務室	130㎡
教育長室			20㎡	
待合スペース			40㎡	
他	當麻文化会館	臨時窓口	50㎡	
		相談スペース	30㎡	
他	當麻文化会館	適応指導教室	80㎡	

用途	室名	規模	定員	想定用途・規模	想定稼働率
ホール	多目的スタジオ	250㎡	200人	音楽・講演・運動	40%
生涯学習	共用活動スペース1	150㎡	80人	会議・講演等	40%
	共用活動スペース2	80㎡	30人	会議・その他	40%
	共用活動スペース3	50㎡	20人	会議・その他	50%
	ミーティングルーム1	75㎡	30人		65%
	ミーティングルーム2	20㎡	8人		40%
	ミーティングルーム3	20㎡	8人		40%
多目的	たたみスペース	60㎡	20人	茶道・着付・将棋等	30%
	ものづくり工房	60㎡	20人	工作・陶芸・絵画等	35%
	キッチンスペース	40㎡	20人	調理・その他交流等	15%
図書館	一般図書エリア	420㎡	70席	(閲覧スペース等を含む)20,000冊	
	児童図書エリア	240㎡		(閲覧スペース等を含む)15,000冊	
	閉架書庫(集密)	70㎡		40,000冊	
	閉架書庫(一般)	150㎡		30,000冊	
	静かなスペース	40㎡	20席	静かに読書、学習をするスペース、対面朗読室	
庁舎関係	執務スペース(庁舎用会議室を含む)	210㎡	30人	国交省「新営一般庁舎面積算出基準」による算出	
	教育長室	30㎡			
	総合窓口課	40㎡	9人	現状程度	
	待合スペース	50㎡		現状程度	
	臨時窓口コーナー	10㎡		現状程度	
	相談スペース	25㎡		現状程度 プライバシーに配慮する	
他	適応指導教室	80㎡		現状程度	
共用部	事務エリア	140㎡		図書・生涯学習用	
	トイレ・給湯室・授乳室等	260㎡			
	倉庫等	230㎡			
	エントランス等	270㎡		エレベーターホール等含む	
	新しい空間	250㎡		子育て支援スペース、カフェ等のコミュニティスペース、ギャラリー等	
小計		3330㎡			
廊下・機械室		670㎡			
合計		4000㎡			⇒500㎡の増床が必要

200人以下(30人前後)の利用が大半であるため、部屋を可動間仕切りで3分割することにより、少人数でも同時に使用可能な部屋とします。

共用活動スペースは可動間仕切りを設け、部屋を2分割することで、他の部屋が満室の時でも利用できます。また、ミーティングルームは庁舎の会議等に利用し、休日・夜間時は一般開放・自習室としても使用可能です。

市民活動で使用しない時は、図書室の閲覧スペースや休憩室として効率的に使用でき、おはなし会の読み聞かせを行う場としても使用できます。

ものづくり工房には陶芸用の窯の設置スペースを検討します。また、流し台を設置することで、華道や絵画等にも使用できます。

料理教室がない時は、ランチルームや集いの場として利用可能です。

ゆったりとした書架配置とすることで、回遊性を高め、心地よい空間とします。閲覧席の充実や空室の開放により、滞在性を高めます。また、閉架書庫を一般開放することで、現状と変わらない検索性を目指します。

子どもたちが天候に左右されずに遊べるスペースや、カフェ等の集いのスペース等、市民に開かれた新しいスペースを検討します。

規模等の適正・共用化

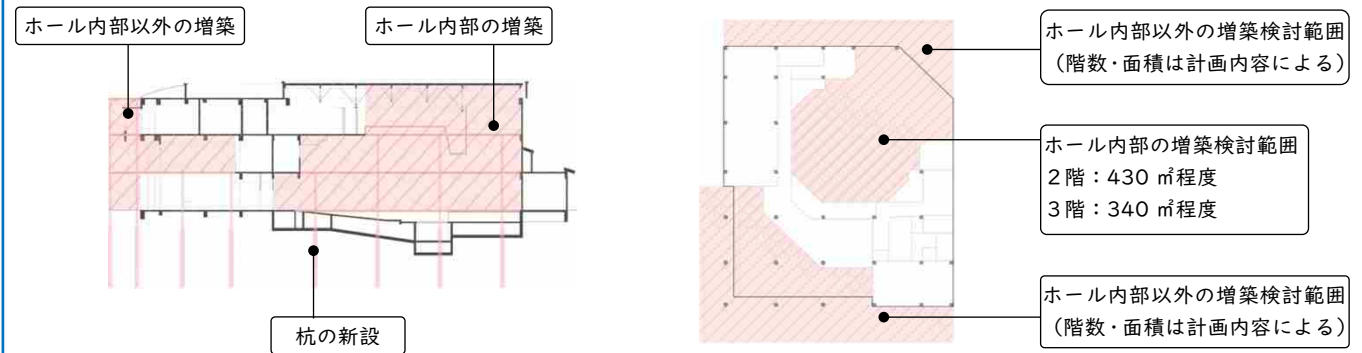
3施設のおもな面積	2622㎡
合計	4880㎡

- ・共有部の集約
- ・諸室の整理
- ・ホールの最適化 等

880㎡減

4 増床の方法

必要面積の4000㎡程度に対して、當麻文化会館の延床面積は3554.8㎡で、500㎡程度の面積の増加が必要です。増築する箇所は屋外面への増築と、屋内はホール内部やエントランス吹き抜け部への増築が考えられます。それぞれのメリット・デメリットを踏まえ、設計段階で合理的な増床・増築方法を検討する必要があります。



5 参考事例

生涯学習や図書館等、新しい複合施設で参考となる、諸室の使用方の参考事例を下記に記載します。

多目的
(運動・音楽)

<ホール>

- 通常は体を動かす体育館として利用可能
- イベント時は可動式の座席を動かし、観客席を設置する

<運動>

- 生涯学習等を行う多目的室として使用できる
- ボルダリング等を使った軽運動ができる



専門的な
部屋

<可動間仕切り>

- ワンルームの部屋を可動間仕切りで適切な規模に仕切ること、多様な使い方ができる
- 遮音性能が高い間仕切りを設置することで、隣の音が気にならずに活動ができる

<和室>

- 華道や書道等で利用し、使われていないときは、休憩や閲覧スペースとして利用できる

<調理室>

- 通常は料理教室等を行い、利用しないときは、ランチスペースとして使用できる

<工芸室>

- 陶芸や工作等で利用する
- 利用していないときは自由にDIY室として利用でき、作成した作品の鑑賞も可能



図書館

<本のレイアウト>

- 表紙を見せる展示方法とすることで、本を手取る機会を増やすことができる

<おはなしの部屋>

- 様々な家具に座り、自由におはなしを聞くことができる
- 子ども図書閲覧スペースとしても利用できる

<閲覧スペース>

- 従来型の壁で仕切られた静かな閲覧スペースと、飲食や会話が可能な賑やかな閲覧スペースの2つを設けることで、状況に合わせた使い方ができる



庁舎

<ひらかれた庁舎>

- 従来の機能を継続させつつ、利便性の高い窓口機能
- 誰もが使いやすい行政サービスに努める
- 有事には防災時の拠点としての機能を確保



新しい
空間

<図書館と遊び場の融合>

- 図書館に子どもの遊び場を設けることで、体を動かした学びも可能
- 親が用事を済ませる間の子どもの居場所をつくる

<ゆとりのある空間>

- 通常時は市民が憩い交流する広場として使用できる
- イベントの際には仮設ブース等を設置し、ゆとりのある使い方が可能



6 機能の配置バリエーション案

これまでの検討内容を踏まえ、當麻複合施設の機能配置のバリエーション案を以下に示します。ただし、これらは現時点でのイメージであり、今後の設計又は運用計画段階で変更になる可能性があります。

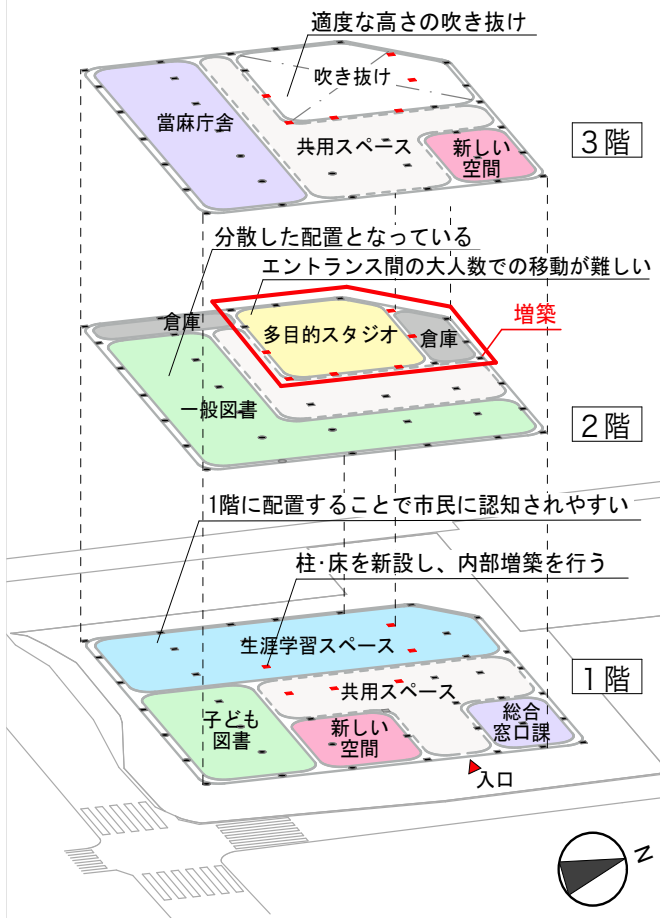
屋内増築（増床）を行った場合の配置案

<メリット>

- 多目的ホールの規模に適した吹き抜けのサイズにできる

<デメリット>

- 多目的ホール増築部分の柱は、既存の杭を避けた位置に柱を立てる。そのため、柱の配置が不均等になる可能性がある
- 多目的ホール増築部分への重機や部材の搬入等に、問題が生じる場合がある



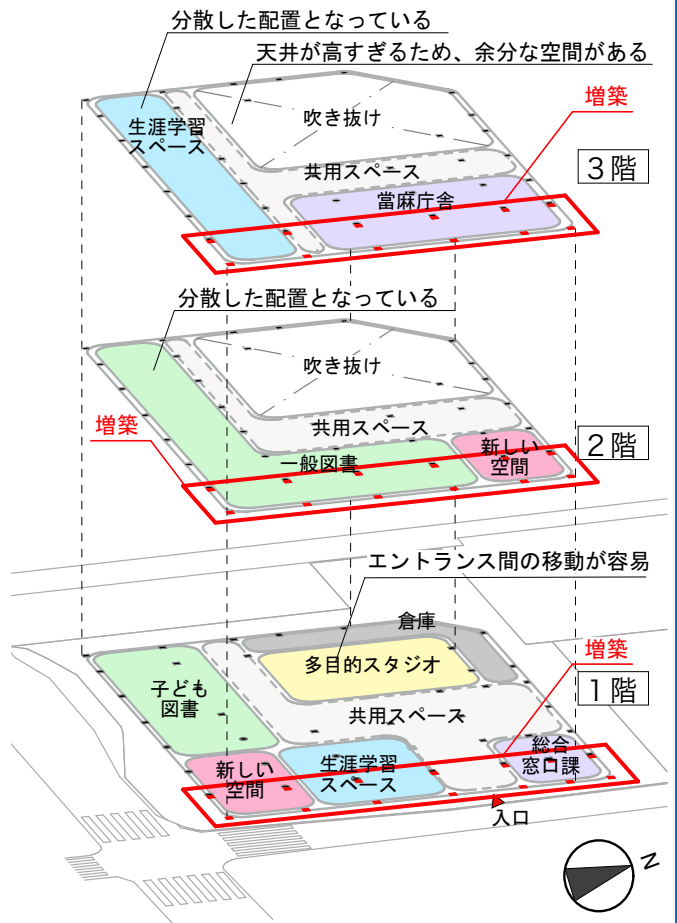
屋外増築を行った場合の配置案

<メリット>

- 難易度の高い工事が少ない
- 道路に面した部分の増築であるため、施工性が高い

<デメリット>

- 既存の吹き抜けが残るため、2・3階のまとまりがある空間を確保しにくい
- 高さ制限等への配慮が必要
- 道路側へ増築するため、圧迫感がある



7 外構計画

(1) 計画概要

外構計画は、新しい複合施設と旧當麻庁舎跡地も含めた検討を行います。旧當麻庁舎跡地は、施設周辺の駐車場として利用する他、倉庫等の設置の必要性も含め検討します。なお、旧當麻庁舎跡地の余剰地については民間活力の導入も含め検討します。計画内容は、今後の設計又は運用計画段階において変更になる可能性があります。

【外構計画リスト】

	計画地	台数	備考	面積
一般駐車場	旧當麻庁舎跡地	150 台程度	農村広場用を含む	4000 m ² 程度
障がい者用駐車場	エントランス付近	2 台程度		40 m ² 程度
サービス用駐車場	複合施設敷地内	2 台程度		40 m ² 程度
駐輪場	農村広場南側	90 台程度	農村広場用を含む	300 m ² 程度

(2) 敷地内

敷地内は来館者と管理者の動線を明確に分けた計画とします。エントランス付近には緑地と障がい者用駐車場の整備を検討し、誰もが気軽に訪れやすい屋外空間とします。

(3) 旧當麻庁舎跡地

新しい複合施設や農村広場利用者に必要な駐車場・駐輪場の広さを確保します。駐車場 150 台程度、駐輪場 90 台程度とします。その他、倉庫等を確保する計画とします。

それ以外のスペースは、直営と民間活力の導入の両面で使い方を検討します。直営の場合は、子どもの遊び場やイベント等を開催できる広場を検討します。民間活用の場合は、生活利便施設等の賑わいを創出するような用途での活用を検討します。今後、民間活用の可能性の調査等を行い、跡地の利用方法を検討します。

ア. 敷地全体を直営で整備する場合の例

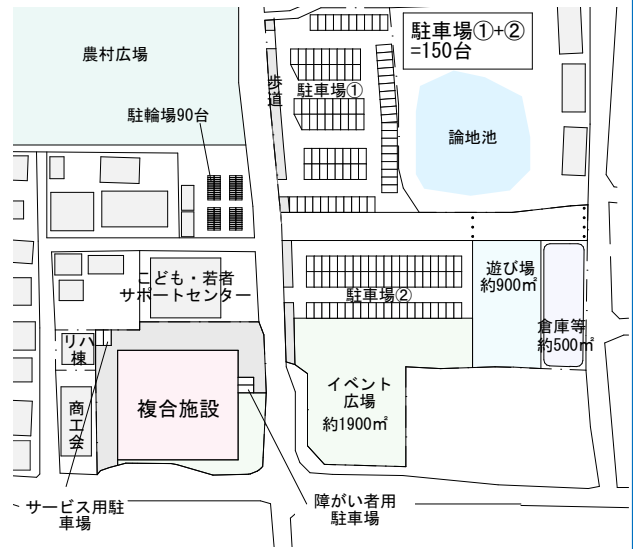
<メリット>

- 周辺情報に合わせたレイアウトが可能
- イベント広場や子どもの遊び場を設けた、広がりのある場をつくれる
- 複合施設の敷地に設けられない広場を確保することができる

<デメリット>

- 維持管理に多額の費用が必要
- イベント広場の利用方法等、新たな活用方法の検討が必要

※設計又は運営計画の進捗に合わせ、より効率的・効果的な配置を検討します。



イ. 敷地の一部に民間施設（生活利便施設）を導入する場合の例

<メリット>

- 周辺住民等や施設利用者の利便性が向上する
- 維持管理費の低減が見込める

<デメリット>

- 市の施設と生活利便施設の駐車場が混在するため、利用者が混乱する可能性がある
- 広場等の新たな屋外空間が設置しにくい
- 民間施設の位置により、来館者の駐車場の位置に制約が生まれる可能性がある

※設計又は運営計画の進捗、並びに民間の意向を踏まえ、より効率的・効果的な配置を検討します。



8 事業費

(1) 概算事業費の試算

前項までの検討内容に基づき、概算事業費を試算しました。算出に当たっては、全国と同規模・類似施設の価格情報データベース等を参照していますが、今後も、建設資材等高騰の影響を受ける可能性があることから、設計又は運営検討段階において再度精査していくこととします。なお、跡地の費用は直営で整備した場合の費用の試算です。

(2) 財源の確保

本事業の財源は、公用施設を除き、社会資本整備総合交付金の活用を検討しています。補助対象外の費用については自己財源が必要となるため、地方債や基金を活用します。また、今後の財政運営に支障を来さないよう、財源負担の軽減に努めます。

【概算事業費（税込み）】

複合施設	委託費	調査、設計・監理費、管理運営検討費等	2億円	
	工事費	増築工事、改修工事、外構工事、家具工事等	20億円	
	その他	備品搬入費、引っ越し費用等	1億円	
			小計	23億円
跡地	委託費	調査、測量、設計費等	1億円	
	工事費	敷地整備、倉庫建設費、解体費等	7億円	
			小計	8億円
			計	31億円

※令和5（2023）年3月時点での概算であり、今後の社会情勢の変化に伴い、変更となる場合があります。

第6章 管理・運営の考え方

再編整備後の事業・サービスの考え方を次のとおり整理します。引き続き関連施策等と連携しながら、事業・サービスの内容や効率的・効果的な提供手法について検討を進めていきます。

1 従来の運営・管理の継続

これまで各施設で実施している事業・サービスの継続を基本とします。

加えて、より多くの市民にとって活用しやすい施設となるよう、これまでにない管理・運営導入の可否についても検討します。

【これまでにない事業・サービスに対する市民意見の例】

- 青空市、新鮮食品、野菜等のフリーマーケットができると良い
- 展示スペースは大きさを自在にでき、明るい場所にしてほしい
- 観光（當麻寺や二上山、竹内街道）目的の人も利用できるような施設として文化的な面を充実してはどうかと思います
- 市の窓口としてはワンストップで IT 端末等で効率よく手続きが行える機能を取り入れてみてはどうかと思います
- 遊具付きの図書館がほしい
- 若者が集うような施設、カフェなど娯楽を充実してほしい
- 予約手続きなしで入れる勉強部屋がほしい
- 親同士が子育てについて話し合える子育て相談施設
- 雨のときでも、遊べる、屋根のある広場が良い

2 複合化を生かした運営・管理の推進

賑わいやつながり、地域への愛着を生み出すサービスの充実や、施設をスムーズに利用できる事業・サービスの提供等により、同一建物内に設置されていることのメリットを生かした事業・サービスを推進します。

- これまで施設内になかったスペース等を活用した、各施設の主催事業の充実
- 各施設で活動する団体・サークルの連携・交流の促進
- 各施設の枠を超えた事業・イベントの開催
- 市内の特色ある取組や地域の文化や歴史等の地域情報の発信強化
- 利用者の受付・相談窓口のワンストップ化
- 子育て支援に関する窓口との連携強化
- 各施設の利用時間や利用料金、利用方法、利用のルール等の見直し・統一化 等

3 幅広い利用者層に対応した運営・管理の推進

地域特性を踏まえ、これまでの施設の利用者に加え、子どもたちや子育て世代等の幅広い利用者層に対応した事業・サービスを推進します。

- 諸室の個人利用検討
- 諸室の貸出時間の見直し
- 諸室のタイムシェア化
- 飲食等の可能なスペースの設定、カフェや催し物等による飲食の検討、出前講座等のアウトリーチの充実
- 新庄図書館や学校図書館との連携の検討
- 子どもたちや子育て世代から現役引退世代まで、多世代を対象とした新しい事業・サービスの充実
- 複合施設周辺エリア活用計画と連携した、多彩なイベントの実施 等

4 ICTを活用した事業・サービスの推進

利用者が容易にほしい情報へのアクセスや外部との連携・交流等ができるよう ICT を活用した事業・サービスを推進します。

- 場所の離れた職員による、オンラインでの顔の見える行政窓口対応
- 新庄図書館、新庄文化会館、中央公民館等との情報交流や連携の可能性
- 公衆無線 LAN 回線サービスの提供
- 諸室空き情報のリアルタイム配信実施
- 遠隔地や複数室間での会議や研修の開催
- オンラインでの各種講座の配信 等

5 管理運営方針の基本的な考え方

管理運営方針について、施設の設置目的、位置づけ及び課題を踏まえながら、行政責任の確保に留意するとともに、利用者である市民へのサービス向上と効率的な管理運営のあり方を総合的に検討し、直営による管理か、指定管理者制度による管理等について判断します。

多様化する市民ニーズに、より効果的かつ効率的に対応するため、民間のノウハウの活用により、直営で管理するよりも、市民が享受するサービスのさらなる向上や施設の管理運営コストの削減が達成できると判断した場合は、指定管理者制度へ移行することが効果的であると考えます。

第7章 今後の検討の進め方と整備スケジュール

「第4章 施設のイメージ像・整備方針」や「第5章 諸室の配置計画」、「第6章 管理・運営の考え方」の考え方にに基づき、今後、ソフト面とハード面の両面の検討を次のとおりに進めます。

1 関連施策と連携した庁内横断的な検討

引き続き、本計画に基づく取組等の関連施策と連携した庁内横断的な検討を進めます。

2 ソフトとハードの一体的な検討

諸室の配置計画の確定や機能、仕様等の具体化に向けて、令和5（2023）年度以降、設計に着手します。設計と並行して、事業・サービスの内容や効率的・効果的なその提供手法のあり方、供用開始までの地域人材の発掘・人的ネットワークの構築・周辺施設や地域資源と連携したイベントのあり方等を検討するため、管理運営計画の策定に向けた、ソフトとハードの一体的な検討に着手します。

3 市民参加による検討

再編整備後の施設が、これまで利用のなかった方を含め、多くの利用者に愛着を持って長く大切にいただけるよう、引き続き関係団体等における意見交換や市民意見聴取の実施等、市民参加による検討を進めます。

4 民間との対話による検討

効率的・効果的な市民サービスの提供と質の向上の実現に向けて、行政サービスの担い手としての民間の活用や、民間とのパートナーシップによるサービス提供の機会を充実させるため、施設の管理・運営や複合施設周辺エリア活用について、市民ニーズへの対応等に資するアイデアや事業・サービスの提供手法等に関するサウンディング調査等、手法や内容を検討の上、民間との対話による検討を進めます。

5 新型コロナウイルス感染症等への対応の検討

安全・安心に多くの市民に利用していただけるよう、本市の感染症等への取組状況を踏まえ、換気方法やトイレ以外への手洗いの設置等、再編整備後の施設における対応について検討を進めます。

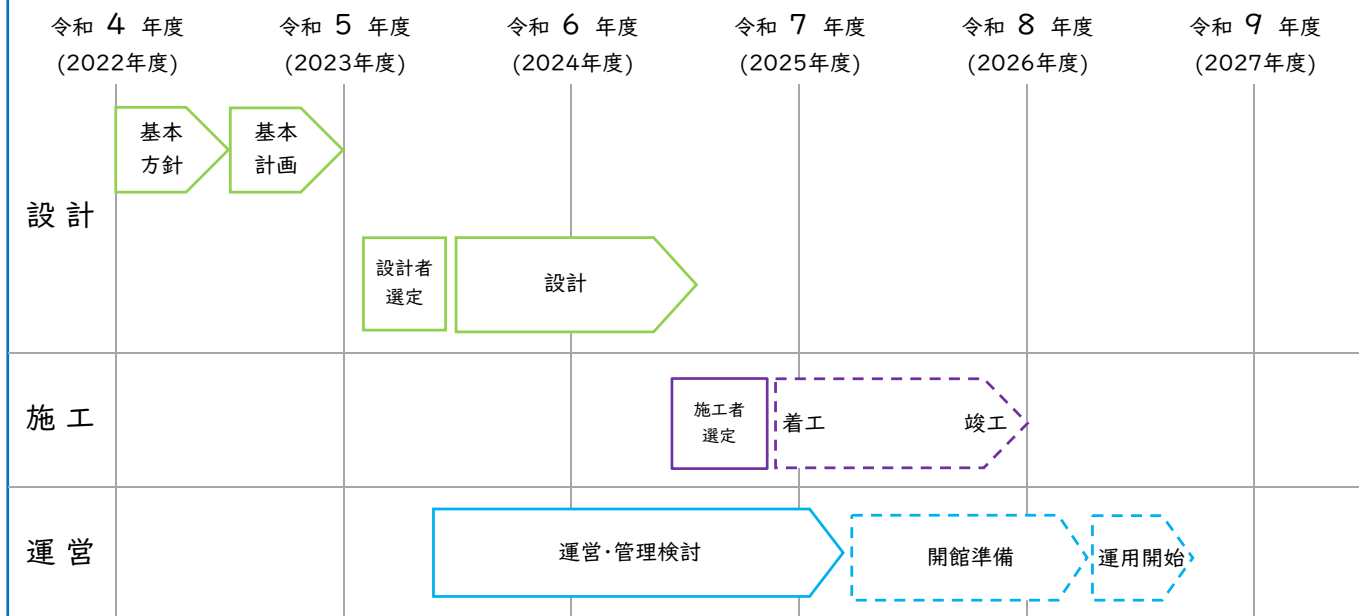
6 整備スケジュール

令和8（2026）年度中の供用開始を目指して、令和5（2023）年度より設計を行い、令和6（2024）年度後半から令和7（2025）年度に改修工事を行う予定です。

また、令和5（2023）年度より、管理運営計画の策定に向けた管理・運営方針の検討作業に着手する予定です。

なお、當麻文化会館は、改修工事期間は休館となるため、改修工事に伴う、休館期間中の他施設の活用や事業・サービスの継続を含む内容等を検討します。

當麻図書館は、移転準備作業に伴い一部機能に制約が発生する可能性はありますが、複合施設への移転までの間、事業・サービスを継続し、移転後、解体工事を含め、當麻複合施設周辺エリア活用に向けた取組として環境を整備する予定です。



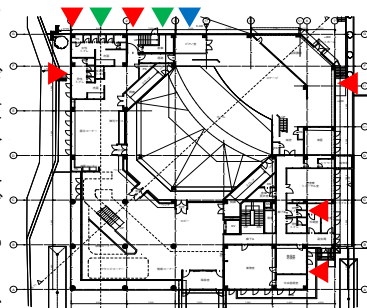
参考資料I (現況調査)

I 當麻文化会館の現況調査

當麻文化会館の現況を目視等により調査を行い、使用状況や劣化状況を把握しました。

施設全体がほぼ建設当時のまま使用されており、大きな変更が加えられた箇所はありません。外壁仕上げはタイル張り・吹付塗装となっており、一部タイルやモルタルの浮きがあるものの、全体としては概ね良好な状態です。コンクリート躯体は、一部中性化が進んでいるものの、目立った劣化箇所はなく、良好な状態です。ただし、地下の機械室に漏水が見られ、屋上の防水層は劣化が進んでいることから、全面的な改修が必要です。

外構は、西側の搬入スロープに沈下が見られるため、改修が必要です。



1階コア抜き・はつり箇所

<凡例>

- ▲:湿式コア採取位置
- ▲:乾式コア採取位置
- ▲:はつり調査箇所

(1) コンクリート圧縮強度及び中性化調査

コンクリートの圧縮強度は健全な数値となっています。中性化は、鉄筋位置まで進んでいる箇所が見受けられますが、鉄筋のサビはない状態です。

(2) 鉄筋腐食度調査

鉄筋は著しく腐食しておらず、かぶり厚さも所定の厚さを確保している状態です。

(3) 鉄骨部材の劣化調査

ホール客席天井裏等の部材に発錆はなく、塗装も良好な状態です。また、溶接及びボルト固定等も良好な状態です。

(4) アスベストの調査

日常で使用する際は問題ありませんが、建材の一部に非飛散性のアスベスト含有建材が使用されていることがわかりました。解体の際は飛散する可能性があるため、専門業者による除去作業が必要です。

(5) 電気・機械設備の現況調査

電気・機械設備の多くは耐用年数を過ぎているため、更新が必要な状態です。また、更新に当たっては、現行の耐震基準に適合させた設置が必要です。

(6) 舞台設備の現況調査

舞台照明、吊物機構や制御・操作機器等の舞台機構、舞台音響設備は経年劣化が進んでいるため、更新が必要な状態です。

(7) 熱・換気環境の調査

各室の温度計測の結果、空調機の能力は充足している状況です。ただし、ホールでは位置によって温度差が生じているため、環境改善が必要な状態です。また、一部の室の換気設備において法定換気量を満たしておらず早急な対応が必要です。

(8) 建物の関係法令等現況調査

現行の「建築基準法」等の法令基準に合わない一部既存不適格となっています。また、建物竣工後に前面道路の拡張が行われており、敷地境界線に不明確な部分があるため、再測量が必要です。さらに、隣接建物の一部が敷地内に越境している可能性があるため、対応が必要です。

(9) 耐震性能の調査

新耐震基準(昭和56(1981)年)以降に建設されていますが、その後の建築基準法等の改正にも対応した耐震性能を有するかは詳細な調査が必要です。今後の改修計画内容に応じて、所要の調査を行う必要があります。

(10) 耐用年数の調査

第三者機関による調査により、タイル面の耐用年数は100年以上との結果が出ました。ただし、外壁の塗装面の一部は中性化が進行しているため、測定不能であるとの結果が出ました。中性化が進行している部分でも塗装面の鉄筋に著しい腐食は見られなかったため、中性化対策を施すことで長期的な継続使用が可能と考えられます。

(11) 増築の可否

現状の建ぺい率は上限70%に対して、60%程度であり、敷地の再測量が必要ですが、増築可能な建築面積は150㎡程度と考えられます。また、増床可能な延床面積は、1500㎡程度と考えられます。(ただし、文化ホールの面積を3000㎡以下とする必要があります。)

2 建物の再使用の可能性

前2項の分析・調査の結果から、劣化箇所の補修・更新や法的不適合箇所の是正を適宜実施することで、建物を長期的に使用することが可能となり、増築・増床も可能であると考えます。



外壁のひび割れ

圧縮強度・
中性化調査

鉄筋調査



鉄骨劣化調査



屋上設備



舞台設備

参考資料2(整備方針)

I 整備項目

大きく三つのテーマに分けて方向性を定め、計画を検討するための軸とします。この三つの軸に基づき、効率的に効果を発揮する項目を中心に長寿命化対策を実施する計画とします。

<多様性>

子どもたちを始め、様々な人々がお互いに特別に区別されることなく、気軽に安心して活用でき、心地よく滞在できる施設とします。

<柔軟性>

新しく自由度の高いニーズに対応しつつ、完成後もニーズの変化に合わせた用途や機能、間取り、改修に対応可能な柔軟性や融通性を確保します。

<施設管理>

未来の50年を見据えた複合化・長寿命化により行政サービスを継続し、今後の公共施設マネジメントの道しるべとなる施設とします。

(1) 様々な来館者やシーンを想定した空間構成 <多様性><柔軟性><施設管理>

ア.スペースの再構築と有効活用

現諸室の利用状況等を踏まえた規模等の適正化や共用化とともに、諸室の多機能化・高機能化・可変性の確保に加え、フリースペース等のニーズの高い、新たなスペースの創出により、スペースの再構築と有効活用を図ります。

イ.諸室の活動の見える化

4つの機能が融合することにより、それぞれの利用者が自然に交じり合い、新たなつながりや、気づきを誘発するため、間仕切りの工夫等により、活動の見える化を図ります。

ウ.ユニバーサルデザイン化

障がい者、高齢者、子ども、子育て世代、外国人等の利用に十分配慮する必要があります。関係法令を踏まえたバリアフリー化はもとより、様々なマイノリティへの配慮を踏まえ、誰もが使いやすい、わかりやすく、安全でゆとりがあるユニバーサルデザイン化を図ります。

エ.木質化と緑化

旧當麻庁舎跡地との連続性や外構の緑地と一体感のある施設となるように、内装等の木質化を検討します。

オ.市民活動や子育てをサポートする空間

利用者が学習や休憩、歓談等自由に利用方法を決めることができるフリースペースを各階に設置する他、市民活動の促進のため、打ち合わせや印刷作業を行うことができるスペースの設置を検討します。また、利用団体等のロッカーは、あり方を考慮した上で、規模や個数を検討します。さらに、子どもたちと親がゆっくりと滞在するための空間を検討します。

カ.様々な人を対象とする設備

車椅子利用者やオストメイト対応の多目的トイレの他、子ども用トイレ、おむつ交換台、授乳室等を設置し、各所には点字案内や、わかりやすいサインの掲示を検討します。

キ.メンテナンス性の向上

配管の増設スペースや更新する際の作業スペース等を確保し、耐久性の高い素材や防汚性のある素材の配管等、メンテナンスが容易な素材を検討します。

ク.複合施設ならではの管理・運営

それぞれの空間・機能を誰もが気軽に使いやすく、設備は長期的に安定した利用を継続できるように、この施設に見合った管理・運営を検討します。



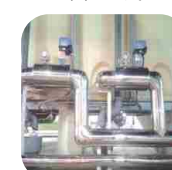
ユニバーサルデザイン



木質化



授乳室

滞在空間¹

容易なメンテナンス

(2) 老朽化対策 <施設管理>

ア.屋上防水の改修

屋上防水は、一部を除き耐用年数が過ぎ、防水層の劣化が進行しているため、全面的な改修を検討します。

イ.外壁の改修

外壁のタイルは、浮きやクラック等の範囲が狭く剥落の危険性が低いため、部分的な補修を行い、吹付塗装部分は中性化対策を実施した上で新しい外装を検討します。

ウ.給排水設備の更新

給排水管等の給排水設備は、これまで部分的な給水管の更新履歴があるものの、大部分の耐用年数が過ぎ、老朽化が進行しているため、全面的な更新を検討します。

エ.ホール設備の更新

ホールの舞台機構・照明・音響は、更新頻度が低く老朽化が進んでいます。今後、ホールの用途・規模に適した設備の導入を検討します。

(3) エネルギー利用方針<柔軟性><施設管理>

葛城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(令和5(2023)年3月策定予定)では、右図の四つを重点取り組みとしています。當麻複合施設の整備に当たっては、次のア～キの方針に加え、下記重点取り組みとして定められた各事項(資料編に詳細を添付)について、所管課との協議を踏まえ、整備の段階に応じた検討を進めます。

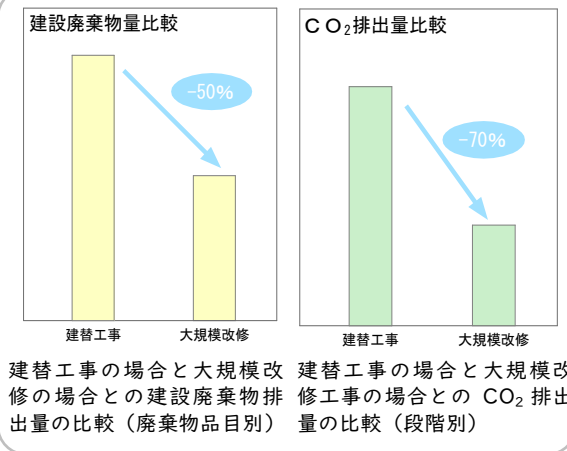
- <ゼロカーボンを見据えた野心的取り組み>
- 重点取り組み1：行政マネジメントによる削減
 - <組織・職員の取り組み>
 - 重点取り組み2：建築物等の建設・維持管理での削減
 - 重点取り組み3：電気使用量の削減
 - 重点取り組み4：公用車燃料使用量の削減

ア.行政マネジメントによる削減

當麻複合施設の整備では、當麻庁舎、當麻図書館、當麻文化会館の三つの施設が一つに集約できることから、公共施設の総量縮減に貢献する取組となります。

イ.既存躯体の活用による廃棄物、CO₂排出量削減

既存躯体の大部分を再利用した大規模改修の場合、建て替えに比べて産業廃棄物の発生を50%程度、CO₂の発生量も70%程度削減できるという研究結果が出ています²。複合施設整備においても同様の手法を採用することで、廃棄物及びCO₂排出量の削減を目指します。



ウ.自然の力の活用

採光・通風等、自然の力の活用に努め、自然光を取り入れることや館内の空気の流れを工夫することで、照明や中間期の空調負荷を抑制する対策を検討します。

エ.断熱・遮熱対策

屋上・壁への断熱材の充填による断熱対策と外部サッシの複層ガラス化等による遮熱対策を検討します。



断熱材

オ.再生可能エネルギーの活用

重点取り組み1に記載のある新技術の導入検討も含め、施設的环境負荷の低減や防災機能の強化のため、太陽光発電設備の設置を検討します。

カ.電気・機械設備の更新

高効率機器の積極的な導入により、1次エネルギー消費量やCO₂削減に寄与する計画を検討します。

電気設備は、受変電設備の高効率化やLED照明・調光器、昼光・人感センサーによる点滅方式の導入、将来の機器等の更新・増設等に柔軟に対応可能な機器のレイアウトや電源計画等を検討します。

機械設備は、施設全体の空調システムの中央方式から中央・個別方式への変更や、個別の部屋の利用状況に応じた換気の個別制御が可能な機器への変更等を検討します。また、トイレが古く、複合化後には利用者の増加も見込まれることから、節水型トイレ・感知式衛生器具を採用し給水使用量の削減を検討します。



太陽光発電

キ.エネルギー消費量の適正な管理

供用開始後に、電気・機械設備の適正な運用や省エネルギー化に向けた運用改善を図るため、エネルギー消費量の可視化や設備の各種抑制システムの採用等による消費電力の低減に努めます。



省エネ対策

(4) 防災・BCP対策<多様性><施設管理>

<周辺エリアの現状>

當麻複合施設周辺エリアには、次の表に記載した各種防災機能が配置されています。葛城市地域防災マップ(令和2(2020)年12月作成)では、周辺エリアは浸水想定区域に指定されておらず、複合化に当たっては、當麻庁舎及び當麻文化会館が持つ機能を合わせて移設し、周辺エリア内で同等の防災機能が維持できる計画とします。

【當麻複合施設周辺にある防災機能】

當麻文化会館	AED、公衆電話
當麻庁舎	AED、防災自販機、公衆電話
農村広場	場外離着陸場、防災倉庫
白鳳中学校	AED
白鳳中学校体育館	指定避難所

<代替施設>

葛城市業務継続計画(平成29(2017)年3月策定)では、葛城市役所新庄庁舎が使用不能となった場合の代替施設に新庄健康福祉センターを、當麻庁舎が使用不能となった場合の代替施設に當麻文化会館を検討対象としています。

また同時に、代替庁舎リストとして第1候補に新庄健康福祉センターを、第2候補に當麻文化会館を、第3候補に歴史博物館を指定しています。

² 東京大学清家剛研究室、首都大学東京角田誠研究室、東京理科大学真鍋恒博研究室の調査による

【代替庁舎リスト】

第1候補	新庄健康福祉センター
第2候補	當麻文化会館
第3候補	歴史博物館

<対策の検討>

當麻複合施設の整備に当たっては、葛城市業務継続計画において災害発生から概ね72時間を「市民の命をつなぐ」初期段階と定めていることを始め、様々な災害状況を想定し、新たに緊急時の要求に応えられる施設となるよう、所管課との協議を踏まえ、設計の各段階において次の各事項に配慮した防災・BCP対策を検討します。

①最低限のライフラインの確保（発災後3日間程度）

②自然光、自然換気ができる計画

③非常用発電機（規模の検討を含む。）

→供給対象はミーティングルーム1、総合窓口課及びキッチンスペースの照明・空調・非常用コンセント、状況によってエレベーターを想定

④太陽光発電機の設置

⑤非常用汚水槽の設置

⑥受水槽等による水の備蓄（容量の検討を含む。）

⑦衛星電話の移設

(5) 耐震性能向上<柔軟性><施設管理>

葛城市役所新庄庁舎、新庄健康福祉センター、當麻文化会館、歴史博物館は、それぞれ昭和56（1981）年以降に建設された建物のため、新耐震基準を満たしていますが、大規模災害時には、備え付けられた非常用発電機の能力や稼働時間について停電復旧までの十分な燃料備蓄ができないこと等が課題となっており、事業継続が困難になる可能性があります。

當麻複合施設は、當麻庁舎機能及び當麻文化会館機能の複合化及び施設の更新とともに、當麻庁舎の耐震性能の課題が払拭できることから、災害時の役割を今後も長く期待される、より一層重要度の高い施設に生まれ変わります。

現状の當麻文化会館の用途では、耐震安全性の分類のうち、構造体Ⅱ類、建築非構造部材B類、建築設備乙類が求められる水準となりますが、災害発生時には、災害対策本部事務局の置かれる新庄庁舎に続き、當麻庁舎は本部事務局・各部との連絡及び報告を始めとした対応が必要な施設に位置づけられていますので、新庄庁舎に準ずる機能を有する當麻庁舎が入居する施設として、構造体Ⅱ類、建築非構造部材A類、建築設備甲類となるよう、より高い水準を満たす計画を検討します。

— <出典> —

<第4章>

1: まちなかりビング北千里ウェブサイト「<https://machikita.jp/about/>」

2: 周南市シビック交流センターウェブサイト「<https://www.city.shunan.lg.jp/soshiki/3/38156.html>」

3: 豊橋市まちなか図書館「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/2022/10/post-77.html>」

4: 仙台市民センターウェブサイト「<https://www.sendai-shimincenter.jp/miyagino/miyaginochuou/kouza/report/hmmr2n000005inpg.html>」

5: 石川県立図書館ウェブサイト「<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/facilityintroduction/1006.html>」

6: こども本の森中之島ウェブサイト「<https://kodomohonomori.osaka/facilities/>」

<第5章>

1 土佐市文化会館つな〜でウェブサイト「<https://www.city.tosa.lg.jp/tsuna-de/info/detail.php?hdnKey=3904>」

2 小松ウォールウェブサイト「<https://www.komatsuwall.co.jp/product/move/lightlywall/index.html>」

3 那須塩原市図書館ウェブサイト「<https://www.nasushiobara-library.jp/2022/12/06/一階健康コーナー展示「人生100年時代」/>」

4 豊橋市まちなか図書館ウェブサイト「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/2022/02/de.html>」

5 海南 nobinos「<https://kainan-nobinos.jp/kaigi/>」

6 三条市立図書館まぢやまウェブサイト「<https://sanjo-machiyama.jp/library/>」

7 豊橋市まちなか図書館ウェブサイト「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/>」

8 丸亀市市民交流活動センター マルタスウェブサイト「<https://marugame-marutasu.jp/event/kids/entry-7649.html>」

9 石川県立図書館ウェブサイト「<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/facilityintroduction/1002.html>」

10 葛城市ウェブサイト「<https://www.city.katsuragi.nara.jp/material/files/group/1/kouhou202201.pdf>」

11 須賀川市民交流センターtetteウェブサイト「<https://s-tette.jp/about/005277.html>」

12 豊橋市まちなか図書館ウェブサイト「<https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/event/2021/11/post-1.html>」

13 財団法人建設物価調査会 ジャパン・ビルディングコスト・インフォメーション（JBCI）の直近の同規模・類似施設の建設費情報を参照し試算。